

広報

やまと

1 月号

2012 No. 219

平成24年を迎え

新年のごあいさつ

特集

「心」を伝える。

～奄美大島・大和村の正月儀礼～

もくじ

02-03 新年のごあいさつ

04-09 特集：「心」を伝える。～奄美大島・大和村の正月儀礼～

10-17 村の話題：ラフウォータースイム開催、ほか

18-18 お知らせ：さえずり調査ボランティア募集、ほか

19-20 連載：島の宝、ほか

新年を迎え色づく山々（今里集落）



「自然と共生し、安全な住みよい村づくり」を目指して

新年明けまして
おめでとうございます。

大和村長 伊集院 幼

謹賀新年

村民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

村民の皆様には、輝かしい平成24年の新春をご家族おそろいでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、全国的に災害の多い年ではなかったかと思えます。特に3月11日に発生いたしました東日本大震災は、地震と併せて原発の事故も重なり戦後未曾有の災害となりました。また、奄美におきましては100年に一度と言われた一昨年の奄美豪雨でありましたが、一年に2度も豪雨災害に見舞われました。亡くなられた皆様方へ哀悼の誠を捧げると共に被災を受けられた皆様方へ心からお見舞いを申し上げます。平成24年が、事故・災害等の無い平和で明るい年でありますように願っております。

村としましては、これまで以上に災害に対する取組の強化を図ることで、村民の皆様方の安心・安全の確保に取り組んで参りたいと考えております。

私は、村政を進める上で大事なことは、「行政は村民の立場に立つて村興しに取り組まなければならない」との基本理念の下に、村政運営を進めて参りましたが、本年も引き続き基本理念の原点に返り、村政に取り組んで参りたいと考えております。

それでは、年頭に当たり、村政の主な施策について申しあげます。

1 点目は、行財政改革の推進による健全財政の確立であります。

村興しの原点は、村民であります。その意味において、事業の効果や必要性なども十分な検討を行い、最小の経費で最大の効果を目指し、適正な予算執行で健全財政の確立に努めて参ります。

また、職員が元気でなければ村民も元気にならないとの思いを持ち、職員の意識を変え、村民サービスの向上に努めて参りたいと思えます。

次に「農林水産業の振興・雇用対策の推進による定住促進及び村の活性化対策」であります。

これからの大和村の産業は、農林水産業であります。これまで掲げてあります振興策の一つに、村の特産品であるスモモやタンカンなどの村外への販路拡大が挙げられます。

これまでも、村のトップセールスマンとして、村外へ特産品のPR活動を積極的に行って参りましたが、今年度より、神奈川県大和市、東京都板橋区での物産展が確立したものととして開催出来るように、進めていきたいと考えております。

また、特産品の加工品については、大和まほろば館を拠点として、開発・商品化を進めることで、村で生産された作物の付加価値を付けることにより、農家の皆さんの生産意欲向上に繋がっていくるように取り組んでいきたいと思えます。

さらに、生産者である農家の皆さんの収入源確保に少しでも貢献するため、村が進めております農作物の名瀬中央青果市場への集荷・出荷体制を今年度も引き続き実施し、利用者の増加に伴い今年度からは、集出荷日数も増やしたいと考えておりますので、地産地消を積極的に推進するために、生産者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

また、雇用対策による定住促進であります。地元企業との連携を進めながら、雇用創出にも繋げて行きたいと思えます。さらに、公営住宅の整備と空き家改修を進めることが、人口減少対策への足がかりとなる環境の整備にも早急に取り組んでいきたいと考えております。

次に少子化対策や高齢者対策は過疎化対策とともに、村の活性化を図る上で重要、かつ緊急の課題であります。出産祝金や乳幼児から中学校までの医療費の無料化等を引き続き行っていくます。

また、高齢者対策につきましては、「村民が皆元氣」をモットーに、健康づくりや雇用対策などにも取り組んで参りたいと思えます。

以上、申し上げました他に、重点項目として「防災強化による安心・安全な村づくり」、「道路交通網、情報通信体系、生活環境の整備」、「高齢者福祉の充実」等があります。

そして、先人が築き上げた功績を守りながら、多くの宝物「豊かな自然や伝統文化」を継承し、後世に残していくための施策を講じて参りますと共に、大和村の基本理念である「自然と共生し、生き生き、安心、安全な住みよい村づくり」を実現するために努力して参ります。

以上のこと等に、全職員一丸となつて、全力を尽くして参る所存でありますので、村民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新春にあたり、村民の皆様方の限りないご多幸と、益々のご健勝をお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

特集「心」を伝える。

奄美大島・大和村の正月儀礼

奄美大島における年中行事は稲作を中心とした農耕文化に起源を發し、琉球やヤマト（薩摩藩）の影響を受けながらも「とうとがなし」という自然への畏敬と「ありがつまりようた」という祖先への感謝を根底に独自の展開を遂げてきました。現在に伝わる儀礼の所作、振る舞い、道具のひとつひとつには祖先の思いがこもっており、伝統行事こそ私たちシマツチュ（島人）の心よりどころといえるでしょう。

現代に生きる私たちは先人から受け継いだ伝統を守り、次の世代へ伝える責務を負っています。しかしながら昨今の生活スタイルの変化は激しく、行事儀礼の中には形骸化、簡素化されたものも多くあります。奄美大島における三大行事、「正月」「お盆」「ミハチガツ（豊年祭）」の中で最も一般的な正月行事でさえ例外ではありません。

正月準備の象徴であった豚の解体に伴う様々な共同作業や生活習慣が姿を消したことは代表的な事例でしょう。その他にも生活改善運動と称し旧来の風習を打破しようとする運動もありました。失われた年中行事の歴史的検証や民俗学的考察は研究者に委ねるとして、私たちは受け継いだ文化の現在形を再確認し、家族や地域の中でどのように伝えるのかを考えるべきでしょう。そのような思いに立ち、平成24年の国直集落を中心に奄美大島・大和村の正月儀礼を追いました。

特集「心」を伝える。奄美大島・大和村の正月儀礼

多忙を極めた正月準備

シツギタテからトウシヌユルまで

正月準備その1（衣類）

【コイムン】買い物

正月にはシャツでも下着でも何かひとつはミームン（新品を身につけます。人々はショーガツギン（正月用晴れ着）を始め正月用品を求めて街へコイムンに出かけました。子供の頃は正月前に名瀬の商店街へコイムンに行くのが楽しみでした。最近のコイムンは奄美市名瀬の商店街から郊外の大形スーパーへ、さらにはインターネットでの通信販売へと変化しています。

【カマチキラシ】散髪

男性たちはコイムンのついでに街の散髪屋に行き頭髪を整えます。現在は大和村内に理髪店はなくカマチキラシは名瀬へ行く他ありません。

【ゲタノーシ】下駄作り

村人の暮らしが和装であった頃は正月が近づくとフンギ（ウラジロエノキ）を乾燥させ、ツグ（シユロ）を鼻緒にして下駄を作りました。以前は正月と盆の年二回下駄を新調しました。

正月準備その2（食べもの）

【ウワンフネイ】豚骨

奄美大島のトウシヌユル（大晦日）は家族全員でウワンフネイを食べます。以前は各家で豚を飼育しておりユイワク（共同作業）でのウアークツシ（豚の屠畜・解体）が見られましたが現在ほとんどの家が肉屋で豚肉を購入します。それでも大きな肉の塊を塩漬ける作業は師走の風物詩でしょう。ウワンフネイの中はウワー（豚）やツバシャ（ツワブキ）、ドーコネ（大根）、フル（ニンニクの茎）など。醤油や味噌は用いず、塩豚のシンプルな味付けが一般的。豚肉はあえてカットせずに、ソフトボール大の塊のまま大胆に盛りつけるのが特徴です。

【サゲドー「コネ」下げ大根

クンチ（大晦日）には葉付きのドーコネを荒縄でくくりウラジロとともにトグラ（台所）に下げます。下げたドーコネは七日のジョーセ（雑炊）や十一日の餅の吸い物に使います。住宅様式が変わった現在ではドーコネを下げる場所も様々です。

【ユーエザリ】夜間（ザリ）火漁

旧暦のトウシヌユルはシウトウキ（大潮）に当たり夜中に潮が干上がるので人々は松明を手にユーエザリに出かけました。夜になると独特のシューカザ（潮の香り）が村に立ちこめたことでしょう。新暦の現代では夜に出歩くことはなく家でテレビを見ながら過ごします。環境の変化からシューカザもなくなりませんでした。

正月準備その3（住まい）

【シツギタテ】節木立て

12月13日にシツギ（長さ六十センチ程の割り木を四、五本束ねたもの）を庭先に立て無病息災を願います。シツギタテは正月準備の始まりで、正月の十五日にはシツギを薪にして飯を炊きます。・・・正月儀礼を記した文献に数多く紹介されている同儀礼ですが近年は目にしたことはありません。

【トウクカザリ】床の間飾り

トウク（床の間）にはトクムチ（床餅＝鏡餅）をお供えします。トクムチは白紙の上にウラジロを敷き、餅を供え、へた付きのアツコ（ダイダイ）を乗せます（以前は餅の数は奇数とされていましたが最近は一重二重ねの家が多い）。また、大きく実ったコーシャ（ヤマイモ）や魚、海老を盛りつけるほか、松の枝に米粉を振りかけた昔ながらの雪松を飾る家もあります。

【カドマツタテ】門松立て

カドマツは門口の両側に白砂を盛り、その上に松、竹、ユズル、ウラジロを70センチほどにして束ねて立てます。竹は穂先を使用しますが最近本土風に節を斜めに切って飾る家も多く見られます。また、スーパーで販売される千円程度のカドマツセットのほか（ウラジロは六枚二百円程度で販売）、簡素化のために役場から配布された門松カードを門に貼り付けて代用する家もあります。

【スナシキ】砂敷き

正月前、家の庭に白砂を敷くスナシキは決まって男の子の仕事でした。砂を積んだ一輪車はとても重たく、自宅と海岸を何度も往復する作業は子供にとつて重労働でした。しかし自然と共に暮らし自然からの恩恵を受ける昔ながらの生活環境こそ島の宝でしょう。



ウワンフネイ



トウシヌユル（大晦日）のウワンフネイ（豚骨）

【ハイガシキ】 拝賀式
午前中に各家でのアササンゴンを済ませると午後からは集落公民館にて新年拝賀式が行われます。集落区長から新年のあいさつがあり、老人クラブ会長等の発声で乾杯が行われ盃を交わします。特にセレモニータ的なものはなく年頭のあいさつの後は世間話をして過ごしました。村内の集落では和服やスーツ姿の正装で拝賀式を行うと聞きますが国直集落では全員が軽装での参加でした。式は「一月一日」の歌を全員で斉唱して中締めになりましたが、青壮年団は全員が残りナンコ遊びで楽しみました。



ナンコ遊び

【ナンコ】 なんこ遊び
ナンコは正月を始め祝いの席で好んで行われる男性の遊びです。ルールはナンコ盤と呼ばれる小さな台を挟んで2人が対座し、ケンミと呼ばれる行司役が台の上座に座ります。お互いに3本ずつ持ったナンコ珠と呼ばれる棒のうちの数本を握って出し合い、互いに相手の握っている本数を当てます。下駄ん歯（2本）、下駄ん目（3本）、兄弟（同数）、せざ（二つ上がり）など独特の数え方が威勢良く飛び出します。単純な数当て遊びですが巧みな話術と気合で相手を揺さぶる心理戦が展開され、スピーディで迫力のある熟練者同士の対戦は周りの見物人をも楽しませてくれます。なお、パラ（手に1本も持たない空つば）は縁起が悪いとされ正月やお祝いの席では禁じられます。

【ショーガツオタ】 正月唄
正月にヒキ（縁引き）一族が集まるとサンシンを弾き、ショーガツオタが始まるといえます。残念ながら国直集落ではウタシャ（唄者）がおらず祝盃とナンコで宴が続きました。

ワカショウウグワツイ ナルイバ
ワカマツイヌ タチュリ
コホロカラ スイガタ
ワハク ナリユリ

【ヤーツキ】 家回り
正月に集落内を回って行う年頭のあいさつをヤーツキとかヤースキ、ヤーマワリと呼びます。通常は正月三が日を通じて行いますが、国直集落では元旦の午後からその日の内に青壮年団員全員が連れだつて各家々を回ります。一年の厄払いの意味合いもあるので漏らすことのないように全ての家を回り、前年に不幸のあった家では特に盛大に行います。

今年も公民館での拝賀式を終えると、トネヤの岡崎範樹さん（73歳）宅を振り出しにヤーツキを行いました。トウシキヤタ（老人）のいる本家を先に回りますが、酔いがまわると徒歩での移動がおぼつかなくなるので「次や我キヤ家アーチ行コー（次は私の家に行きましょう）」と我先に自宅へ先導します。長時間に及ぶ苦行（？）のため途中で脱落する者もいたそうですが、今年も無事に全ての家を回ったとのこと。



国直青壮年団によるヤーツキ



【ワカミズクミ】 若水汲み
元日の早朝、イジュンゴやキュッキョと呼ばれる集落の神聖な水場へワカミズを汲みに行きます。汲んだワカミズはお茶を沸かし仏壇にハツをお供えしたあと家族でいただきます。またワカミズで顔を洗うとスデイル（若返ると）いわれておりひとすく洗顔をします。以前は元日の十二支から数えて指が曲がる範囲（五番目以内）の干支の人が水汲みの役目を務め、アキホ（恵方）に向かって水を汲む決まりであったと聞きますが、国直集落では十二支やアキホにこだわらず家族でテラシキへ初詣に行きその帰りにテラシキのコーで若水を汲みます。



三献・一の膳

「さあ、ガン（蟹）などがスデイル（脱皮する＝若返る）話をしてみよう。昔、トウシキヤタ（老人）が元日のスカンマ（早朝）若水を汲みにいらつしやって、アキホ（恵方）にむかつて手などを合わせて、水を汲んで帰り道のこと。トウシキヤタなものだからハブイラ木（サルベリの木）のネグリ（根っこ）につまづいて、その汲んだ若水をハブイラ木のネグリにこぼしたそう。それでそのハブイラ木のネグリにいたマジムン（蛇）やガンなどが、その若水をかぶってしまった。それからハブイラ木もガンなども、そのおかげでスデイルようになったそう。それから人間は年々若返ることがなくなったという話だよ。」

「奄美の暮し」儀礼」から
田畑千秋著（第一書房）
話者 川畑豊忠氏（大和村名音出身）

【アササンゴン】 朝三献
正月は家族全員がオモテ（表座敷）に集まり、厳肅な雰囲気の中でアササンゴン（アサヨエともいいます）を行います。初めにムチヌスイムン（餅の吸い物）、次にサシミ（刺身）、ウワーヌスイムン（豚の吸い物）の順番で膳を取ります。出産祝いや入学祝いなどの普段の三献は簡略化され三つの膳をセットで出しますが、正月の三献は一膳ずつ配膳され、家長の「オーシヤフロ（おあがりください）」の言葉で一斉に箸を取ります。

ムチヌスイムンにはクブ（昆布）を敷いたムチ（餅）、ナバ（椎茸）、コイシャ（ヤマイモ）あぶった白身魚、クルマエビ、ゆで卵が入ります。刺身はアカマツ（ハマダイ）やソージ（カンパチ）などの白身魚を二切れに生姜を添えたもの。ウワーヌスイムンは豚肉とドーコネ（大根）ニンジンなど。豚肉の替わりに猪や鶏を用いることもあります。

食事が済むと、上座についた主人が家族ひとりひとりに高膳の盃に酒を注ぎます。飲み干すとコンブとスルメ（もしくはシイラ）の干物にムリシュ（盛り

盛山俊一さん（国直・77歳）から奥さんの小夜子さん（74歳）へ「クワーマガヌセワナラントウリドクサシクラスイヨ（子や孫の世話にならないよう健康で暮らして下さい）」と盃に注ぐと、小夜子さんが「ワンナナンオカゲドナマガディコラツタアリガツサマリョータ（私は今まで貴方のおかげでここまで来れましたありがとございました。）」と日ごろの感謝を口にした。お互いを思いやる心遣いに心が和んだ。



朝三献を交わす盛山さんご夫婦

特集 「心」を伝える。く奄美大島・大和村の正月儀礼く
元日は家族そろって朝三献
ワカミズクミからヤーツキまで

り塩」を箸で絡め「今年も健康で無事に過ごすように」等の言葉をかけながら差し出します。家の者は両手で授かり恭しく頂きます。子供たちはアササンゴンが済まないとお年玉がもらえないのでおとなしく正座をして儀式に参加します。厳かで身の引き締まる古き良き風習です。

特集 「心」を伝える。く奄美大島・大和村の正月儀礼く

一月二日以降の正月儀礼

セックノヨエからヨーカトハツカまで

■1月2日

二日はセックニン（大工）や大工の心得のある人たちがセックノヨエ（大工の祝）を行います。セックノカミサマ（大工の神様）にスミツボ（墨壺）、バンジョガネ（曲尺）テノ（手斧）などの大工道具と塩や榊のお供えをし、三献のお祝いをします。また、イシヨシヤ（漁師）たちはフネヨエ（船祝い）として船のオモテ（船首）に盛塩とお酒を供えて航海安全と豊漁を祈願します。その他にも農耕始めとして畑にソテツの苗を3本植える風習があり、二日に植林した木は丈夫に成長すると信じられています。

■最初の干支の日

トシノヨエ（歳の祝）は、その年の干支に当たる13歳から85歳の年々男のお祝いです。以前は年の最初に当たる自分の干支の日に行っていました。最近正月休みの内に引き寄せて行うことが多くなりました。

■1月4日

四日は官公庁の仕事始めです。大和村では午前中に役場での仕事始め式を行い、午後一時から消防出初め式、午後三時から成人式を行いました。

■1月7日

ナンカンゼック（七日の節句）にはサゲドコネ（大晦日に下げておいた野菜）を下ろしナンカンジョーセ（七日の雑炊）を炊きます。ナンカンジョーセを食べることは厄払いの意味があり子どもが健康に育つようにという願いが込められています。数え年七歳になった子どもは親戚やご近所の七軒の家を回りお椀一杯ずつのジョーセ（雑炊）を貰い集めます。最近ジョーセにお祝いをつけることが多くなりました。

奄美大島のナンカンジョーセは本土の七草粥とは異なり、クウムイ（米）、シユーツケウワ（塩豚）、ドーコネ（大根）、ウム（里芋）またはクウブ（昆布）、ナバ（椎茸）、オヤシ（大豆のモヤシ）、シンムトウ（小ぶりのネギ）またはフル（ニンニクの葉）の七種の具を炊きます。ただし、最近あまりこだわらずに正月の残った野菜で済ませる家庭も多いようです。

■1月11日

11日はカドマツを取り払い、トウク（床の間）の餅や山芋などを片づけるトウクザラエといい、下ろしたトウクムチ（鏡餅）やサゲドコネでムチノスイムン（雑煮）を作ります。14日は五穀豊穡、無病息災、商売繁盛を祈願してナリムチを飾ります。ナリムチは枝振りの良いブブギ（リュウキュウエノキ）にカラフルに染めた餅を装飾した縁起物です。本土の繭玉に当たる風習らしく、大和村での歴史はそれほど古くないようです。

■1月15日

15日は小正月。大和村ではウワンフネイ（豚骨）やトウクムチ（鏡餅）などのご馳走を食べます。正月料理をかたづける日なのでカメザライの日とも呼びます。

■1月16日

正月の16日は盆の16日とともにアクニチまたはステビと言われます。1年で最も悪い日とされ、仕事を休み静かにすごします。また、山の神様が下りる日なので山仕事に携わる人は山の神祭りをします。

■1月18日

正月行事が全て終わる18日から20までをヨーカトハツカと呼びヒキヤゲ（シツキヤゲ）を食べます。ヒキヤゲはハヌス（サツマイモ）を蒸してつぶし、餅米の粉もしくはトウクモチやナリムチと練り合わせて作ります。ヒキヤゲは引き揚げの意味があり正月気分もこの日で終わります。

ヒキヤゲ

「心」を伝える。



ネリヤカナヤに安全と豊漁を願う

豊かな恵みをもたらす海も時として荒れ狂い人間に襲い掛かる。大自然の前では人間は小さな存在でしかない。漁師達ははるか海のかなたネリヤカナヤの神々に航海の安全と豊漁を願います。



色とりどりの餅の華でお客様を歓迎

いつも笑顔で職場を明るくしてくれる重野弘乃さん（保健福祉課）と和泉和香さん（職員組合）のお二人がナリムチ作りに挑戦。役場ロビーに色とりどりの餅の華を咲かせ、訪れるお客様の目を楽しませていました。



子どもはみんなシマの宝

池田浩二さん（津名久・45歳）の三女、栞音（かのん）さんが親戚の中山高栄さん（津名久・83歳）宅へナンカンジョーセをもらいに行くとご夫婦から熱烈的な歓迎を受けました。ご両親だけでなく親戚や集落の人たち全員が子供たちの健やかな成長を願っています。

特集では下記の文献を引用または参考にいたしました。

- 大和村誌
大和村誌編集委員会（洵上印刷）
- 奄美大和村の年中行事
古典と民俗学の会（白帝社）
- 奄美の暮らしと儀礼
田畑千秋著（第一書房）
- 沖縄・奄美の歳時習俗
崎原恒新・山下欣一共著（明玄書房）
- 奄美シマジマ（村々）の暮らし
求哲次著（広報社）
- 復刻奄美生活誌
恵原義盛著（南方新社）
- 奄美民族雑話
登山登著（南方新社）

※ 特集の内容については国直集落の取材に基くものであり奄美大島で一般的に行われているものとは限りません。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は日本人の心に大きな風穴を開けました。それまでの経済活動一辺倒で、貨幣という単一の価値観でしか計ることのなかった私たちの暮らしに「真の幸福とは何か？」という疑問を投げかけたのです。

昨年11月にワンチュク国王が来日したブータン王国は、GDP（国内総生産）が日本の20分の1という貧しい国にもかかわらず国民の95%が幸福だと感じているといわれています。裕福な暮らしや恵まれた生活環境でもない人たちがなぜ幸せだと感じるのでしょうか。その答えは「人間関係と隣人関係、家族関係の平和と交流に満足しているから」なのです。「家族との絆、友人との絆、地域との絆」これは東日本大震災、さらには一昨年の奄美豪雨災害で私たちが何度も反すうして実感した言葉です。

私たち大和村の生活環境はこの数十年で大きく変わりました。道路や港湾を中心とした社会基盤は急速に整備され、医療福祉サービスは向上しました。しかし、無限の恵みをもたらしてきた珊瑚礁は朽ち果て、命の源である森は瀕死にあえぎ、さらには地域における人々のつながりが希薄になりつつあるのは残念でなりません。

私たちの祖先が愚直なまでに守り続けてきた畏敬と感謝の年中儀礼こそ理想のライフスタイルではないでしょうか。オヤフジ（先祖）の残した「とうとがなし」と「ありがたさまりようた」こそ、「心」を伝える世界共通のキーワードなのです。

大和村水泳連盟（伊集院幼会長）主催による新春恒例の初泳ぎが1月2日早朝、国直海岸で行われました。

あいにくの強風と高波の国直海岸でしたが、村内外から5歳～53歳の40名が参加。開始に先立ち伊集院会長が新年のあいさつで「寒風が吹く中ですが冷たい海に入ること身清め、一年を健康ですごせるよう元気に泳ぎましょう」と寒さに凍える参加者を激励。参加者は入念な準備運動や砂浜でのランニングで体を温めた後、開始の合図とともに一斉に水しぶきを上げながら海中へ「突入」していきました。

入水時は海水の冷たさに悲鳴を上げ、奇声を発していた参加者たちですが、すぐに慣れた様子で力強く遠泳を開始。海岸から50メートル程の沖合に達すると全員で円陣を組み、立ち泳ぎで三本締めを行い一年の無病息災を祈願しました。

最後に全員が集合し恒例の写真撮影。寒さをこらえて笑顔でポーズを決めて参加者たちも終了の合図とともに一目散に陸へ上がって行きました。

水連事務局長の大山綱治さん（49歳）によると「初泳ぎは30年以上続く恒例行事。海水は冷たく辛いですが、初泳ぎで新年のお祝いをしないと正月を迎えた気がしない」と語っていました。

海水の適度な刺激で身を清めた参加者たちは元気いっぱいでの新年のスタートを切りました。



新年明けましておめでとー！
海中から元気に新年のごあいさつ。



気合だぁー あぁ～！海へ突入です。

平成24年初泳ぎ



in 国直海岸



寒いよぉー！焚火を前に。



ファイトー！
大会では奄美ライフセービングクラブのみなさんが応援に駆けつけ競技をサポートして頂きました。



えい！えい！うぉー！
スタート前の記念撮影の様子。

ラフウォータースィム



ラストスパート！
悪天候の中力強く泳ぐ選手たち。

10月29日（土）、本村の国直海岸にてラフウォータースィム・ジャパンシリーズ第6戦in奄美大島大会（主催・同大会実行委員会）が開催されました。ラフウォータースィムとは、海や川などの自然環境下で長距離を泳ぐ水泳競技で、同シリーズは日本各地で競技を行い奄美大島での開催が最終戦となるものでした。

大会は国直海岸を発着地点として5km、3km、1.5kmの3つの距離で行われ、各距離に8歳から75歳、総勢158名のスイマーが参加しました。当日は強い風が吹き瀬波が立つ厳しい条件ながら各選手元気に力泳。

3kmの部では大棚小学校の加藤眞吾教諭がタイム53分01秒で見事優勝を果たしゴールの際には一段と大きな歓声が上がりました。また、3kmの部に出場した長田正博さん（46歳）と長田虎太郎さん（13歳）親子がそろって上位入賞を果たすなど地元勢が活躍した大会でもありました（虎太郎さん総合4位・正博さん総合11位）。

大会終了後は大和村公民館にて交流会を開催。全国各地から集まった老若男女のアスリートたちが地元食材に舌鼓を打ち、シマウタなどの伝統芸能に触れながら交流を深めました。

なお、同大会は今年の5月12日に同じく国直海岸で開催されること。珊瑚礁や熱帯魚と戯れながら遠泳を楽しんでみてはいかがでしょうか。

1月4日、大和村中央公民館講堂にて平成24年二十歳の記念日・成人式が開催され、対象者34名のうち18名が参加しました。

式典では泉有智教育長が「成人としての自覚を持ち、高い志と感謝の気持ちを忘れずに品格のある大人になってください」と式辞を述べた。

続いて伊集院幼大和村長や今井秀樹村議会議長、森亮大和村連合青年団長ら3名が祝辞を述べ、森亮団長は青年大会バレーボールの部で全国大会へ出場した経験談を交えて青年団活動を紹介。活動を通じて地域興しに協力する気持を「我きやで興そう我きや生まれジマ」と語り参加を呼びかけた。

新成人者は全員が自己紹介を行い、「自然が豊で人の優しい大和村で子育てをしたい」、「今学んでいるパティシエの仕事覚えたら将来は大和村に店を開店したい」、「将来は大和村に帰り村の発展に協力したい」等とひとりひとり抱負を述べた。

最後には新成人者を代表して山崎麻美さん（大和中学校卒業）が「大人としての責任や義務を胸に刻み、自分を育ててくれた家族や郷土に感謝し、社会に貢献したい」と謝辞を述べた。

式典中は緊張に顔を強ばらせていた新成人者も記念写真撮影では終始リラックスムード。華やかな振り袖姿や大島紬姿でポーズを決め、素敵な笑顔に会場は華やいだ雰囲気包まれた。

「将来は村の発展に貢献したい。」 二十歳の記念日 （成人式）



新成人者氏名（保護者氏名）

大和校区

- ② 永田裕美（永田栄子）
- ③ 大町祥世（大町博之）
- ⑧ 山崎麻美（山崎忍）
- ③ 小田裕莉明（小田康人）
- ④ 森眞記子（森和明）
- ⑤ 奥広翔（奥親大）
- ⑥ 山畑諒（山畑滋子）
- ⑦ 里川龍正（里川正行）
- ⑩ 大山綱雅（大山綱治）
- 有村朋聖（有村文男）
- 請島拓（渡美香）
- 畑山信広（畑山春二）
- 和田かなこ（和田ますみ）

戸円校区

- ⑫ 西野賀雄（西野賀智）
- 真優一郎（真博志）
- 竹原大起（竹原重彦）
- 飯村ありさ（富田千歳）

名音校区

- ① 山田瀬里香（山田正二）
- ① 井上有美（井上敏弘）
- ② 勝千春（勝三千也）
- ⑩ 坂元秀（坂元由貴）
- 勇治也（勇行治）
- 勇紀行（勇行治）

大棚校区

- ⑦ 赤井博美（赤井隆造）
- ⑨ 岩泉幸恵（岩泉おとよ）
- 祇園下隆一朗（祇園下隆）
- 東和紀（東和寛）
- 元山雄司郎（元山和市郎）
- 竹中望（竹中義晴）
- 林下愛美（林下清志）
- 吉野七香（吉野由香利）

今里校区

- ⑧ 宮田魁輝（宮田清子）
- ⑨ 溜畑蓮（溜畑マサエ）
- 稲澤佳菜子（稲澤弘久）
- ①は前列右から
- ①は後列右から

表彰及び叙勲受賞者（敬称略）

日本消防協会表彰 表彰旗

大和村消防団

日本消防協会表彰 精績章

伊村光志（大金久・55歳）

鹿児島県消防協会表彰 精績章

森田昌敬（今里・54歳）

梅田健二（名音・40歳）

鹿児島県消防協会支部長表彰 15年勤続章

森田昌敬（今里・54歳）

県消防協会支部長表彰 功績章

森田幸一郎（大棚・49歳）

叙勲 瑞宝単光章

和泉松雄（思勝・77歳）



「無火災・無災害を願って。」 大和村消防団 消防出初め式

1月4日、大和中学校グラウンドにて大和村消防団主催による消防出初め式が開催されました。

消防出初め式は今年一年の無火災・無災害を祈念するとともに団員の士気高揚を図る目的で毎年開催しています。村内の5分団、52名の消防団員による行進に始まり、村長による観閲式を行った他、小型ポンプによる一斉放水を披露。団員の機敏な動きでホースが延長され、グラウンドに5本の放水アーチが架かると観客から大きな歓声があがりました。

式辞では伊集院村長が「常に現場の第一線に立ち地域住民の生命と財産を守る団員の活動に感謝するとともに、自主防災組織を強化、充実させ安心安全な災害に強い村作りを推進します」と語った。また来賓として訪れた鹿児島県知事（松田典久大島支庁代読）と奄美警察署長（向井浩奄美警察署副署長）が祝辞を述べると、団員を代表して伊村光志団長が「団員一人一人が防災の精神を認識し、常に訓練に励み地域に役立つ消防団を目指します」と決意を誓いました。

一昨年の豪雨災害時においてはいち早く現場に駆けつけ村民の生命と財産を災害から守った消防団。これからも地域において防災力を高め、火災や災害のない一年にしてほしい。なお、表彰を受けられた団体、個人は下記のとおりです。



地域の絆をタスキにつなぐ

大和村村内一周駅伝競走に6チーム84名の選手が力走

11月20日（日）、第28回集落対抗村内一周駅伝競走が開催され、今里集落を出発し大和村体育館までの14区間25.02キロのコースに5集落6チームが参加し健脚を競いました。

大会序盤は昨年優勝の大和浜チームが先頭でレースを引っ張るものの、好選手を揃えた大棚Aチームが5区で先頭に立つとそのまま後続を引き離しトップでゴールイン。5大会ぶりの優勝を果たしました。優勝した大棚Aチームは6人の選手が区間賞を獲得したほか、6区の川下誉選手が12大会ぶりとなる区間新記録をマークするなど選手層の厚さが際だっていました。また、躍進賞には4位に健闘した国直チームが選ばれました。

なお、今回は開催前から運営に対する改善要望等が多く寄せられた大会でもありました。生涯スポーツや児童生徒の健全育成、また地域の結束のためにどのような形で歴史ある大会を存続させることができるのか、来年度への課題となりそうです。

大会結果は次のとおりです。

総合1位	大棚A	1時間38分37秒
総合2位	大和浜	1時間44分20秒
総合3位	津名久	1時間44分30秒
躍進賞	国直	1時間50分01秒
区間賞		
1区	仁規将太郎（大和浜）	6分03秒
2区	内山拓哉（大棚A）	3分54秒
3区	南雲聡（国直）	6分57秒
4区	三浦賢人（津名久）	10分10秒
5区	中島繁（大棚A）	6分44秒
6区	川下誉（大棚A）	5分55秒・区間新記録
7区	宮本聖平（津名久）	7分31秒
8区	直崎京花（大棚A）	3分53秒
9区	渡邊環樹（思勝）	15分06秒
10区	畑島亮太郎（大和浜）	8分56秒
11区	登海人（思勝）	5分55秒
12区	岩元麻耶（大和浜）	4分31秒
13区	堀美南（大棚A）	6分12秒
14区	内山英寿（大棚A）	4分01秒



1区 今里立神前スタート



4区 徳浜断崖



5区 磯平パーク入口



14区 大和村体育館前ゴール

共に支え合い半世紀

晴れやかに大和村合同金婚式を開催

11月22日（いいふうふの日）、大和村中央公民館において大和村合同金婚式が開催され、結婚50年目の節目を迎えた7組の夫婦を祝福しました。

式典では金婚式を迎えた各夫婦の50年の歩みやエピソードを紹介し、ご夫婦に記念写真と花束を贈呈。開会のあいさつでは伊集院幼村長からご夫婦にねぎらいの言葉とこれまでの功績に対し感謝の言葉が述べられたほか、今井秀樹議会議長からご夫婦の益々のご長寿を祈念する祝辞が送られました。

祝宴は、浜川昇さんの祝唄、麓幸子さんの祝舞に続き泉有智教育長の発声で乾杯が行われ、唄や踊りなどの華やかな余興で7組の夫婦を盛大に祝福。会場は終始、笑顔と笑い声に包まれ奥様方の着物姿と相まって晴れやかな一日となりました。

奥山徳次さん・イワさんご夫婦は「結婚生活を振り返ると楽しいことも、苦しいこともたくさんありました。今思うと50年という月日は早いものでした」と感慨深げに語ってくれました。

金婚式を迎えたご夫婦（写真左から）

奥山徳次さん（73歳）イワさん（73歳）大棚

玉井俊一さん（75歳）洋子さん（71歳）思勝

吉原安廣さん（83歳）イク子さん（80歳）津名久

大崎忠通さん（76歳）一恵さん（79歳）大和浜

（伊集院幼村長）

森田範勝さん（77歳）園枝さん（74歳）大棚

前里親男さん（79歳）昭子さん（75歳）思勝

池勇蔵さん（75歳）良子さん（74歳）戸円

（泉有智教育長）

村山和彦さん（80歳）弘子さん（73歳）思勝（ご欠席）

いつまでもお元気で仲良くお過ごし下さい。



奄美の自然を鮮やかに

やせいのいきもの絵画展入賞者を表彰

奄美自然体験活動推進協議会が主催する第12回やせいのいきもの絵画展の表彰式が12月3日奄美野生生物保護センターにて行われました。

同絵画展は奄美の子ども達に島の自然や生きものについて自分自身で見て、感じてほしいとの趣旨から広く募集。今年のテーマ「奄美の自然の未来」にそった力作264点の応募があり、勝えりいさん（名音小3年）の「あまみの生き物たちのすきなながめ」と、高島洋さん（大和小5年）の「美しい海をいつまでも」がいきもの大賞に選ばれました。

入選者には副賞として入賞作品12枚で構成された2012年カレンダーがプレゼントされ、誇らしげにカレンダーを見つめていました。

入選者は次のとおり（敬称略）。

■いきもの大賞

勝えりい（名音小3年）・高島洋（大和小5年）

■あざやか賞

川畑香慧美（名音小3年）・十倉弘丞（古仁屋小

3年）・野崎優弥（大和中3年）・柳香佑（同3年）

■ユニーク賞

高田生希（名音小1年）・春島菜々望（天城小2年）・菊入さんご（名瀬小学校5年）・福山祐実（大和小5年）

■審査員特別賞

川畑光智慧（名音小1年）・高田海翔（同3年）



「お餅をぺったんしたよお」

年末恒例のひらとみ朝市に多くの人出

ひらとみ朝市（同実行委員会主催）が12月28日、思勝港緑地広場で開催され、早朝から正月飾りや正月用の食材を求める人々でにぎわいました。

同朝市は地産地消を進める農家グループによって20年程前に発足。当初はひらとみ神社前で不定期に開催していましたが、現在は思勝港内にて年一回、12月28日に開催される年末の恒例行事となりました。

しめ縄や門松といった正月飾りの他ヤマモモや大根等の農産物、新鮮な魚介類が多数並び、特に勝三千也さん（52歳）の出品した福元名産「福元どーこね（大根）」は大人気で、開店から10分で完売するほどの盛況ぶりでした。

当日は実行委員会によって餅つきが行われ、会場には餅米を蒸す香ばしい香りと、餅をつく威勢のいい掛け声が響きました。訪れた上間蔵生さん（思勝・35

歳）涼介くん（4歳）夏希さん（2歳）親子も餅つきに参加。周りの声援に励まされながら上手な杵さばきで餅をつきました。

テントではつきたての餅やぜんざいが無料で振る舞われ、訪れた人達は温かい食べ物にホッと一息ついていました。



「ムチもらたー ヨイヤー ヨイヤー」

伝統の湯湾釜集落ムチモレ踊り

11月11日、湯湾釜集落（51世帯・元継男区長）で伝統のムチモレ踊りが行われました。

ムチモレ踊りは350年以上続く湯湾釜集落の伝統行事で、毎年旧暦の10月16日に行われています。同踊りは集落が大火に見舞われた際に利水が悪く田んぼの泥を投げて火を消したことに起因するといわれ、防火と利水、近年は無病息災や五穀豊穡も合わせて祈願して踊られます。

当日は集落の人たちが公民館に集まり、トネヤ（村の守護神を祀る家）を皮切りに各家々を回りました。踊りの一行は三味線やチジン（太鼓）の鳴り物隊を先頭に派手な浴衣で「女装」しスカーフや風呂敷で顔を隠した子どもや青年たちなど。踊りのスタイルは八月踊りのように決まった振り付けはなく思い思いに手招きをするように踊っているようでした。

この日は各家々でカシャ餅（クマタケランの葉で包んだ蒸したサツマイモのお餅）が作られ、訪れる人た

ちに振舞われます（カシャ餅は消火の際に使われた田んぼの泥を意味するとのこと）。

踊りの途中で家の当主からカシャ餅と金一封の寄付を貰うと、「餅もろたー 餅（花）もろたー」、「よいやー よいやー」と威勢のいい掛け声があがります。

集落の厄払いなので一軒も漏らさず家々を周り、深夜まで踊り明かしました。



「あ〜らどっこい、どっこい♪」

盛大に大和村老人クラブ交流会を開催

11月25日、大和村中央公民館にて大和村老人クラブ連合会（大崎忠通会長）主催による交流会が開催され、村内各集落から200人以上の高齢者が参加。会員たちは体操や余興で親睦を深めました。

交流会は、大崎会長のトークショーさながらの開催あいさつに始まり、来賓として出席した伊集院村長が「各地域ではまだまだ老人クラブのみなさんの力を必要としています。これまで培った経験を生かして今後も大和村のために貢献してください」と祝辞を述べました。

開会式典に引き続き、奄美市名瀬のスポーツジム「アクアクラブ」の森田奈緒子指導員が簡単な体操を指導。椅子に座ったまま体を動かす「まんげんしょなよ体操（ころばないでね体操）」を紹介すると、参加者たちは両手両足を上下、左右、前後に大きく動かしたりフレッシュした様子でした。

余興大会では各集落の「芸達者」が壇上に上がりカ

ラオケやダンスなど自慢の芸を披露。コミカルな踊りや玄人はだしの歌声に会場からは大きな歓声が沸き、会場は終日お年寄りの元気な笑い声に包まれました。

最後は老人クラブ活動のさらなる充実を誓い、全員がホールいっぱいの輪になり六調を踊って締めくくりました。



さえずり調査ボランティア募集

特定非営利活動団体奄美野鳥の会では、毎年3月にオオトラツグミのさえずり調査を実施し、繁殖個体数の増減を記録しています。調査の結果、不明だった生息数など少しずつ明らかになりました。この調査を実施するにあたって、毎年多くのボランティアを募っています。みなさんもオオトラツグミのさえずりを聞きに、清々しい早朝の奄美の森を歩いてみませんか。

調査の方法は、早朝の林道を歩きながら、さえずりを地図に記録していきます。少しでも野鳥観察の経験がある方であれば、どなたでもご参加いただけます。また、事前の説明会で録音テープにてさえずりを覚えていただきますので、詳しい専門知識を必要とするものではありません。詳しくは、奄美野鳥の会にお問い合わせ下さい。

◆調査日程

3月17日(土) 補足調査

3月18日(日) 一斉調査

3月20日(火) 補足調査

3月25日(日) 補足調査(大和村地域)

◆問い合わせ・申込み先

特定非営利活動団体 奄美野鳥の会

TEL: 0997-57-7593

HP: <http://www.synapse.ne.jp/~lclth/>

確定申告はお早めに

確定申告の時期が近づいてきました。平成23年分の所得税の確定申告期間は、平成24年2月16日(木)から平成24年3月15日(木)までとなっています。

所得税は、納税者自身が所得金額や税額を正しく計算して納税する申告納税制度をとっていますので、申告と納税は、期限内にお済ませ下さい。確定申告の提出は、郵送等でもできます。

申告期限が間近になりますと、申告会場は大変混雑し、長時間かかる場合もございますので、お早めに申告をお済ませ下さい。

なお、国税庁ホームページの、「確定申告書等作成コーナー」で簡単に申告書等の作成ができますので、是非ご利用下さい。

(国税庁 <http://www.nta.go.jp>)

詳しいことは、最寄りの税務署におたずね下さい。

大島税務署 52-4321



放送大学で学びませんか

放送大学では平成24年度第1学期(4月入学)の学生を募集中です。

放送大学はテレビやラジオの放送を通して学ぶ遠隔教育の大学です。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。働きながら学んで大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、様々な目的で幅広い世代、職業の方が学んでいます。

○15歳以上の方なら1科目から学習する選択履修生・科目履修生として入学できます。

○18歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、入学試験はなく、全科履修生として入学でき、4年以上在学して、124単位を取得し卒業すると、学士(教養)の学位を取得できます。

○一つの分野を体系的に学びたい方には「放送大学エキスパート」を実施しています。

出願期間は2月29日まで。

資料を無料で差し上げています。

お気軽に放送大学鹿児島学習センター

(tel 099-239-3811)

(fax 099-239-3841)

(E-mail kagoshima46@ouj.sc.jp)

までご請求下さい。放送大学ホームページでも受け付けております。

(放送大学HP: <http://www.ouj.ac.jp>)

お誕生おめでとう

勝 幸盟さん(保護者・勝栄一郎)

お悔やみ申し上げます

元平サツエ様(83歳)
蘇畑 チヨ様(92歳)
富 新三郎様(82歳)
吉村 照光様(94歳)
川畑 信敏様(76歳)
浜田 信也様(61歳)
山下 繁明様(76歳)

香典返し(社会福祉協議会へ)

富 孝子様(故富新三郎様)
安田 幸夫様(故安田哲子様)
川畑 和代様(故川畑信敏様)
山下 光郎様(故山下繁明様)

ふるさと納税ありがとうございました

林 幹雄様(千葉県市川市)
蘇畑 輝代様(埼玉県鶴ヶ島市)
吉原 安久様(沖縄県宜野湾市)
徳田 恵子様(東京都千代田区)
築山 修紀様(神奈川県横浜)

広報誌謝礼ありがとうございました

(株) HISANO 通信システム様(奄美市)
今井 秀文様(知名町)
川畑 和昭様(奄美市)
榊 美乃様(奄美市)
森山 勲雄様(鹿児島市)
河野 達人様(日置市)
川畑 憲之様(埼玉県川越市)



オオトラツグミは、奄美大島のみに生息するツグミ科の野鳥です。深い常緑広葉樹林をすみかとし、この時期になると、まだ日の昇らない暗い時間に澄んだ美しい声でさえずります。絶滅危惧IB類に指定され、生息が危ぶまれています。詳しい生息は解明されておらず、謎の多い野鳥です。

島の宝 満1歳おめでとう

河野琉衣さん

保護者・河野誠さん(大金久)



ひゅうが兄ちゃんと遊ぶのが大好きになるいちゃんです。

野山の



南の島の紅葉

奄美大島、特に大和村の冬は実際の気温より体感温度が低く感じられます。それは冬の間ニシと呼ばれる北西の季節風が吹き荒れ、寒々とした情景に包まれるから。空はどんよりと曇り、海岸線のリーフは波が砕け、山の木々は山頂に向かって不格好になびきます。「せめて祭り事の日ぐらいいは・・・」と晴天を願っても叶うはずありません。それが島の季節なのですから割り切るほかないのです。

年明けと同時に最低気温が10℃を下回る日が続くと山の木々が気温の変化に呼応して色付き始めました。常緑樹が大勢を占める深山の森とは異なり、集落近くの里山には紅葉する木々が多く自生しているのに気づかれます。紅葉の代表格はハジギ（ハゼノキ）。皮膚がかぶれる方には厄介者のハジギですが、空気が冷え込むほどに葉は鮮やかな朱色に変化し人々の目を楽しませてくれます。そのほかにもハマセンダンやハブラギ（シマサルズベリ）などの落葉樹が黄色から朱色に変化し山の斜面に紅葉のグラデーションを織りなします。



こせきの窓

人口	1,704人	(△66)
男	818人	(△18)
女	886人	(△48)
世帯	897戸	(△8)

1月1日現在
(前年同月比)

大和村を南北に走る主要地方道名瀬瀬戸内線（県道）は村で最も重要な生活道路。ダイナミックな地形と入り組んだ海岸線を走るこの道は冬の間、紅葉スポットが連続します。

先日今里の紅葉（表紙写真）を撮影に行った際、思わず唸るような光景に出会いました。山の斜面ばかりに目を取られがちでしたが道路から見下ろす紺碧の海と深紅の紅葉のコントラストは山肌に劣らず美しい光景だったのです。いつも絶景を見落として通り過ぎていた自分を恥じました。

翌週、天候を見計らいにくだんの場所へ向かうとそこには紅葉はなく、葉を落とした木々の寒々とした光景だけが広がっていました。海岸線の紅葉は北風に吹かれ、ほんの一時で消えていきました。

しかし、落胆することはありません。木々は落葉すれば若葉が芽吹き新緑の季節を迎えます。まもなく島にも春が訪れるのです。



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>